

令和8年度 大学院看護学研究科看護学専攻 博士前期課程

入学者選抜試験（1月入試） 問題冊子

小論文

(100点 60分)

【注意事項】

1. 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
2. 問題冊子は1冊子2ページ、解答用紙は3枚です。
3. 試験開始後、問題冊子や解答用紙に落丁・乱丁のある場合は、直ちに申し出てください。
4. 試験開始後、解答用紙に受験番号と氏名を記入してください。
5. 試験終了後、解答用紙を回収しますので、指示があるまで退席しないでください。

【問題1】

あなたの看護実践を振り返り、印象に残った事例について「看護におけるリフレクションの定義」を参考にして、解答用紙の項目に沿って解答欄に記述しなさい。(50点)

看護におけるリフレクションの定義

「看護におけるリフレクションとは、看護実践の中で感じた不快な感情や違和感をきっかけに始まる経験の振り返りによって、看護実践能力を高めていく思考様式である。また、リフレクションは経験を想起し、それを注意深く吟味することによって、その状況に対する見方の広がりや変化を可能にし、看護実践のレパートリーを増やし、あるいは新たな看護実践を創造することを可能にする意図的な思考プロセスであり、看護基礎教育、現任教育を問わず、学習可能な思考のスキルでもある」

【出典】

「田村由美, 池西悦子: 看護の教育・実践にいかすリフレクション, p.27, 2014, 南江堂」
より許諾を得て転載.

【問題 2】

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）は、近年の高齢多死社会の進行を背景に重要性が増し、「人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン」（平成 30 年 3 月改訂）においてその概念が導入されました。

ACP の推進において、医師、看護職、ソーシャルワーカー、介護支援専門員等から構成される多専門職種 of 医療・ケアチームが本人・家族等を支える体制で行うことが重要です。このプロセスにおいて、看護職はチームの一員として、また、本人と最も近い身近な立場で関わる専門職としての役割が求められます。

問 1

このガイドラインにおいて、ACP のプロセスを実践する上で重要とされていることを、説明しなさい。(25 点)

問 2

ACP において、本人の意思決定能力が十分な場合、本人の尊厳を追求し、自分らしく最期まで生きることを支援するために、看護職は、医療・ケアチームの中でどのような専門的役割を果たすべきか、あなたの考えを述べなさい。(25 点)

【出典】

厚生労働省：人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン 改訂平成 30 年 3 月。一部引用

人生の最終段階における医療の普及・啓発の在り方に関する検討会：人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン 解説編 改訂 平成 30 年 3 月。一部引用